

3 夏秋きゅうりの晩ば栽培法（園試 野菜花き部）

—— は種期、栽植密度、整枝法について ——

播種期は6月中旬とし、栽植様式は畦幅 220 cm、株間 45 cm、条間 40 cm の2条まき（a 当り 202 株）とする。整枝は親づる、子づるの2本仕立てとする。適応地域は高冷地帯を除く県下全域。

(1) 背景とねらい

本県の夏秋きゅうりの作期拡大は、これまで前進化の方向で検討されてきた。

しかし、8月下旬以降の草勢低下にともなう生育後期の品質、収量の低下は著しく、これが夏秋きゅうり栽培の大きな問題点となっている。そこで夏秋きゅうりの晩ば栽培の作型を確立し、後期の品質、収量の向上を図ろうとして、は種期、栽植密度などについて検討した結果、一応の成果が得られたので指導上の参考に供する。

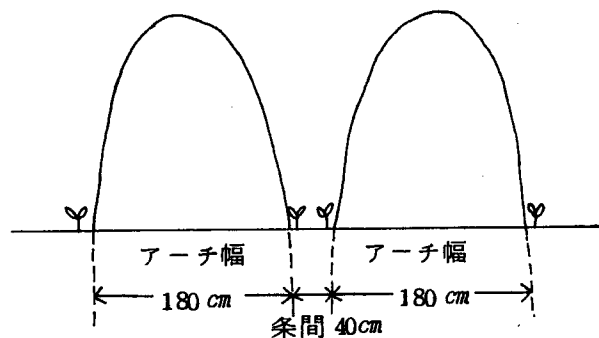
(2) 技術内容

1) 夏秋きゅうり晩ば栽培におけるは種適期は6月中旬である。

2) このは種期における栽植様式は畦幅 220 cm、株間 45 cm、条間 40 cm の2条まき（a 当り 202 株）とする。

3) 整枝法は親づる、子づるの2本仕立てとする。

4) 適応地域、高冷地帯を除く県下全域



(3) 指導上の留意点

1) この作型ではウィルス病が発生しやすく、また直まき栽培では、タネバエの被害による欠株がやすいため必ず防除を徹底する。

2) 整枝法は慣行栽培に準じて行い、8月中旬以降は放任する。

3) 圃場の利用上移植体系とする場合は、前述のは種期より更に4～5日早まきし、7月上旬の定植とする。

4) この作型は、慣行（5月上旬まき移植体系）の収穫最盛期が終る8月中下旬以降に収穫のピークがみられるため、これら作型の組合せによる面積拡大ができることと、初夏どりレタスなどの後作としても導入できる有利性がある。

(4) 試験成績の概要

- 1) 試験課題名 夏秋きゅうり晩ば栽培法確立試験
 2) 試験年次および場所 昭和54～56年 岩手県園芸試験場
 3) 試験方法

(ア) 供試条件

① は種期と栽植様式(昭和54～56年)

栽 植 様 式	は 種 期			実施年次
	6月1日	6月15日	7月1日	
畦幅 280 cm 株間 60 cm 2条条間 70 cm (標準) 119株/a	○	○ 54	○ 54	54～56
" 220 " 60 " " 40 152	○ 54 55	○	○	54～56
" 220 " 45 " " 40 202	○ 55	○	○	55～56
" 90 " 60 1条 - 185	○ 54	○	○	54～56

※ 但し、整枝法は2本仕立、は種期の数字は実施年次

② 栽植様式と整枝法(昭和54～56年)

栽 植 様 式	整 枝 法				実施年次
	1本仕立	2本仕立	3本仕立	放 任	
畦幅 280 cm 株間 60 cm 2条	-	○	-	○ 54	54～56
" 280 " 45 2条	○	-	-	-	54
" 220 " 60 2条	○ 55	○	○ 56	○ 54 55	54～56
" 220 " 45 2条	○	○ 55 56	○ 56	-	54～56
" 220 " 35 2条	○	○	○	-	56
" 90 " 60 1条	○ 54	○	-	○	54～55
" 90 " 45 1条	○ 54	○	-	○	54～55

※ は種期6月15日、整枝法の数字は実施年次

(イ) 1区面積および区制 1区20株 2区制

(ロ) 供試品種 ときわ北星

(ハ) 栽培様式 直まき栽培

4) 試験結果

(ア) 54年は9月下旬以降10月にかけて気温は高めに推移し、比較的生育、収量とも安定したが、55年は低温寡日照、56年は8月下旬の台風、秋の低温等により全般に生育収量は劣った。

(イ) 同一栽植様式では、は種期が早いほどa当り収量が高かったが、9月以降の後期収量では6月15日、7月1日まき区がまさった。栽植様式と収量との関係では畦幅220cm、株間45cm 2条植区、それに畦幅90cm、株間60cm、1条植区が全収量、後期収量ともまさったが、作

業性等から90cm畦の導入は困難と思われた。

従って、この作型に適するは種期と栽植様式は、6月15日まきで畦幅220cm、株間45cmの2条植と判断される。

(ウ) 栽植様式と整枝法の関係では、いずれの年でも畦幅220cm区がa当り収量でまさる傾向を示し、株間は55、56年とも同畦幅の45cm区がまさった。

整枝法では多少の年次間差はあるものの、同栽植様式の2本仕立区、放任区が概してまさる傾向を示し、特に9月以降の後期収量では55、56年とも2本仕立区がややまさり、両年とも標準区より25%前後増収した。

(5) 主要成果の具体的データ

1) は種期と栽植様式

表1 収 量 (a当り)

試 験 区		良 果	曲 果	くず果	合 計	良十曲	収量比	良果率	
54 年	280×60×2	6月1日	331Kg	308Kg	298Kg	937Kg	639Kg	100	35.3%
		6月15日	351	275	279	905	626	98	38.8
		7月1日	253	167	158	578	420	66	43.8
	220×60×2	6月1日	430	396	414	1,240	826	129	34.7
		6月15日	404	330	331	1,065	734	115	37.9
		7月1日	185	152	182	519	337	53	35.7
	90×60×1	6月1日	309	318	378	1,005	627	98	30.8
		6月15日	439	308	315	1,062	747	117	41.3
		7月1日	314	206	182	702	520	81	44.7
55 年	280×60×2	6月1日	328	201	172	701	529	100	46.8
	220×60×2	6月15日	230	167	107	504	397	75	45.6
		7月1日	122	74	55	271	216	41	45.0
	220×45×2	6月15日	283	195	121	599	478	90	47.2
		7月1日	147	120	40	307	267	51	47.9
	90×60×1	6月15日	286	212	116	614	498	94	46.6
		7月1日	190	126	47	363	316	60	52.3
56 年	280×60×2	6月1日	335	198	146	679	533	100	49.3
	220×60×2	6月15日	291	220	133	644	511	96	45.2
		7月1日	130	146	131	407	276	52	32.0
	220×45×2	6月15日	314	228	176	718	542	102	57.9
		7月1日	155	176	131	462	331	62	33.6

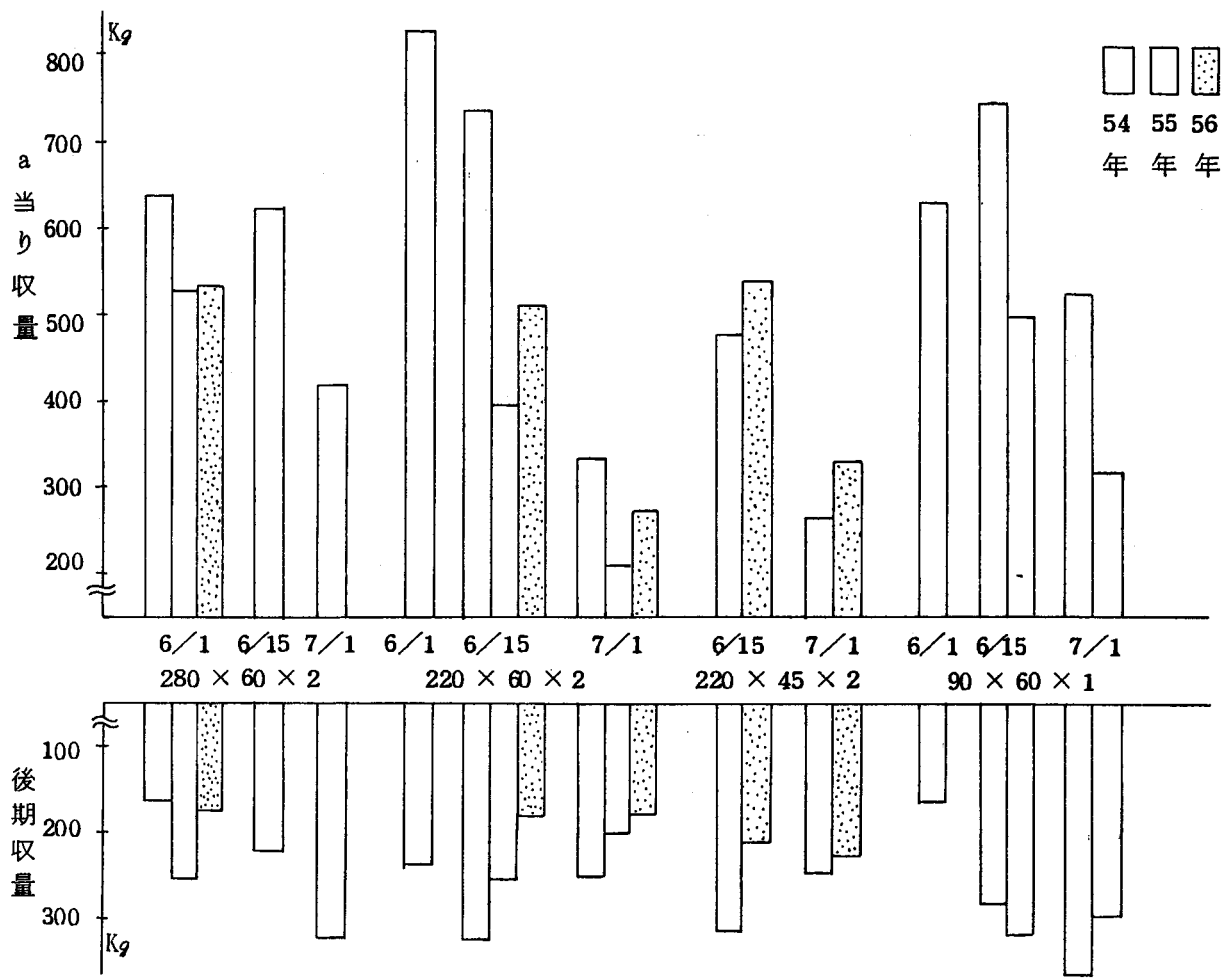


図1 は種期と栽植様式の a 当り収量と後期収量 (9月以降)

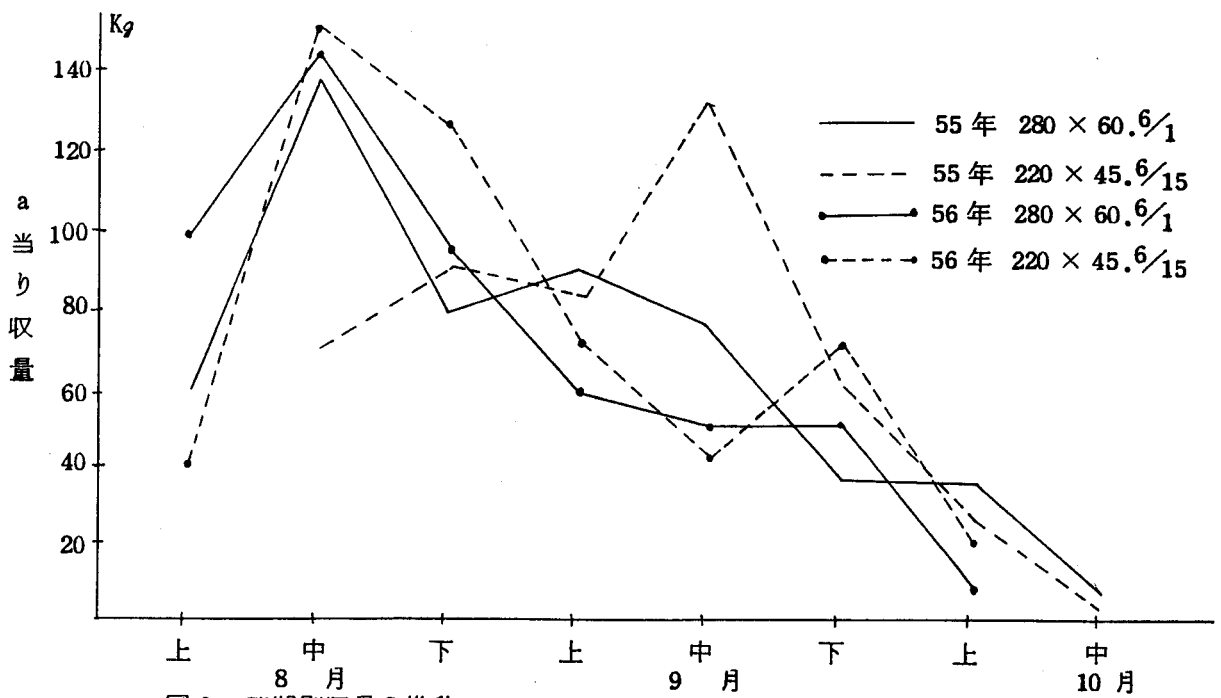


図2 時期別収量の推移

2) 栽植様式と整枝法

表2 収 量 (a 当り)

試 験 区		良 果	曲 果	くず果	合 計	収 量 (良十曲)	収量比	良果率		
		Kg	Kg	Kg	Kg	Kg		%		
54 年	280 × 60 × 2	2本仕立	349	284	237	870	633	100	40.1	
		放 任	332	258	313	903	590	93	36.8	
	280 × 45 × 1	1本仕立	347	273	242	862	620	98	40.3	
	220 × 60 × 2	2本仕立	406	322	277	1,005	728	115	40.4	
		放 任	472	341	364	1,177	813	128	40.1	
	220 × 45 × 1	1本仕立	364	340	313	1,017	704	111	35.7	
	90 × 60 × 1	2本仕立	378	336	333	1,047	714	113	36.1	
		放 任	385	324	292	1,001	709	112	38.5	
	90 × 45 × 1	1本仕立	356	276	320	952	632	100	37.4	
	55 年	280 × 60 × 2	2本仕立	189	162	94	445	351	100	42.5
		220 × 60 × 2	1本仕立	223	148	105	476	371	106	46.8
			2本仕立	230	167	107	504	397	113	45.6
放 任			276	182	102	560	458	131	49.3	
220 × 45 × 2		1本仕立	288	229	197	714	517	147	40.3	
		2本仕立	319	195	121	635	514	146	50.2	
		放 任	308	193	159	660	501	143	46.7	
90 × 60 × 1		2本仕立	286	212	116	614	498	142	46.6	
		放 任	243	200	124	567	443	126	42.9	
56 年		280 × 60 × 2	2本仕立	253	187	123	563	440	100	44.9
		220 × 60 × 2	2本仕立	291	220	133	644	511	116	45.2
			3本仕立	257	204	145	606	461	105	42.4
	220 × 45 × 2	1本仕立	315	210	176	701	525	119	44.9	
		2本仕立	314	228	176	718	542	123	43.7	
		3本仕立	299	217	174	690	516	117	43.3	
	220 × 35 × 1	1本仕立	327	216	193	736	543	123	44.5	
		2本仕立	298	206	176	680	504	114	43.8	
		3本仕立	343	223	170	736	566	129	46.6	

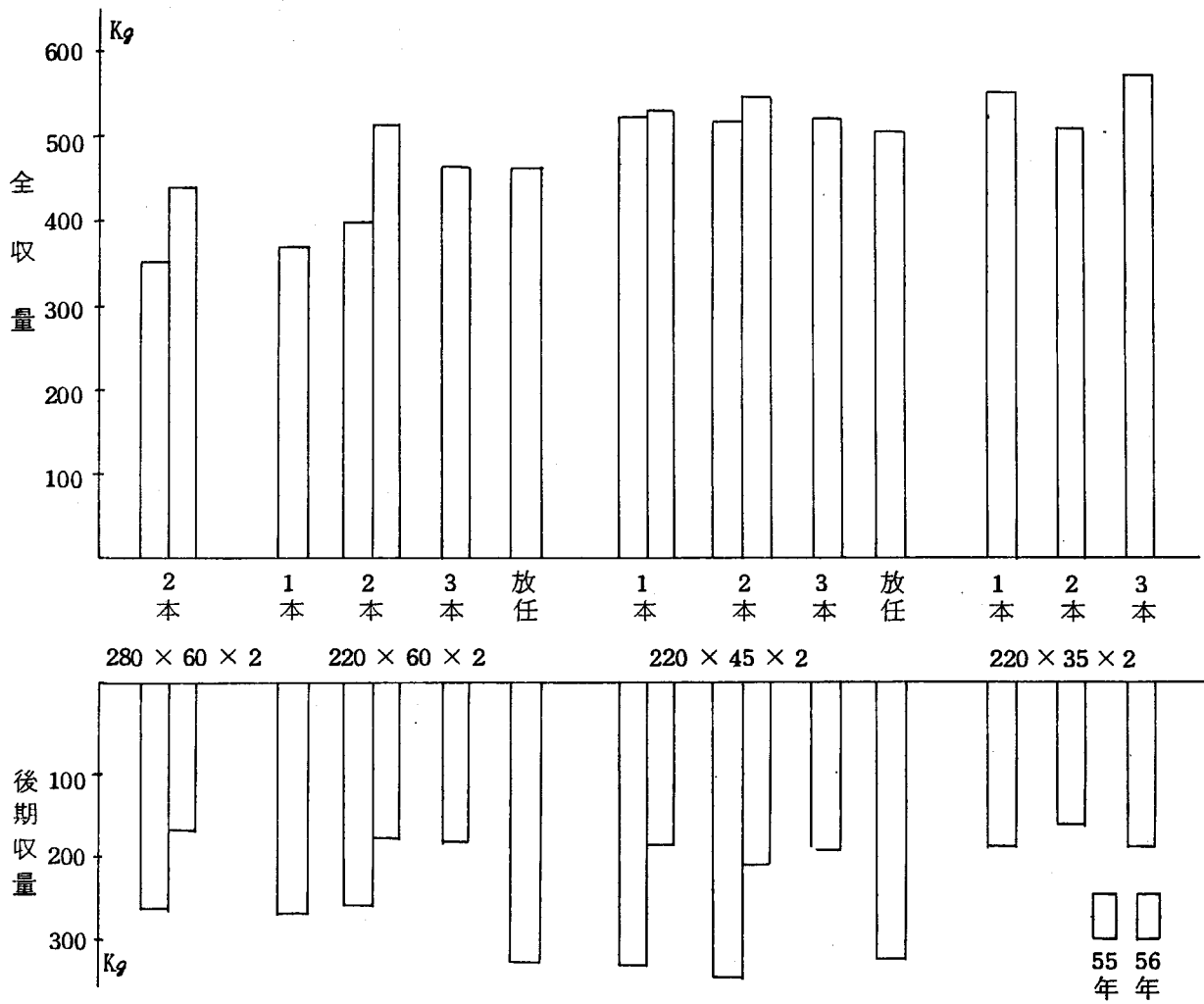


図3 栽植距離と整枝法のa当り収量と後期収量(9月以降)

参 考 資 料 a当り時期別収量および販売金額

時 期 別	8 月	9 月	1 0 月	合 計	販 売 金 額
平 均 単 価	144.8円	176.0円	208.4円	—	
55年6月15日まき	165.7 Kg	312.4 Kg	35.5 Kg	513.6 Kg	86,373円
56年6月15日まき	331.3	190.4	20.2	541.9	85,692

※収量は55、56年の実績、単価は中央卸売市場における過去5年間の平均

(6) 残された問題点

簡易被覆と品質、収量